

日 薬 業 発 第 216 号
平成 29 年 10 月 4 日

都道府県薬剤師会会長 殿

日 本 薬 剤 師 会
会 長 山 本 信 夫

麻薬・覚醒剤乱用防止運動の啓発活動実施に係る協力依頼について

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

標記につきまして、厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課長より別添のとおり通知がございましたのでお知らせいたします。

本年 10 月 1 日から 11 月 30 日の 2 か月間を、麻薬・覚醒剤乱用防止運動月間として各種啓発活動を実施されます。

同運動は、麻薬、覚醒剤、大麻、シンナー、危険ドラッグ等の薬物乱用による危害を広く国民に周知し、国民一人一人の認識を高めることにより、薬物乱用の根絶を図ることを目的とするものです。

貴会におかれましては、会員薬局へのポスター周知（以下の月間ページよりポスターをダウンロード・印刷してご利用ください）ならび、地域の関係機関と連携の上、標記運動の趣旨に沿った取り組みを賜りますようお願い申し上げます。

○厚生労働省ホームページ > 報道・広報 > 報道発表資料 > 2017 年 9 月 > 麻薬・覚醒剤乱用防止運動を実施します

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000179105.html>

薬生監麻発0927第1号

平成29年9月27日

公益社団法人 日本薬剤師会会長 殿

厚生労働省医薬・生活衛生局

監視指導・麻薬対策課長

(公 印 省 略)

麻薬・覚醒剤乱用防止運動の啓発活動実施に係る協力依頼について

薬物乱用防止活動につきましては、平素より御協力、御支援をいただき厚く御礼申し上げます。

本年10月1日から11月30日の2か月間を、麻薬・覚醒剤等薬物の乱用問題に対する認識を広く国民に浸透させるための麻薬・覚醒剤乱用防止運動月間として各種啓発活動を実施することとしております。

つきましては、本運動の趣旨を広く国民に普及しその実効を上げるため、貴会ホームページにおけるポスター掲載及び本運動の周知、また貴会会員における薬物乱用防止啓発ポスターの掲示について、特段の御配慮を賜り、御協力、御支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成29年度麻薬・覚醒剤乱用防止運動実施要綱

第1 名 称

麻薬・覚醒剤乱用防止運動

第2 目 的

麻薬、覚醒剤、大麻、シンナー、危険ドラッグ等（以下「麻薬・覚醒剤等」という。）の薬物乱用は、乱用者個人の健康上の問題にとどまらず、各種の犯罪の誘因など公共の福祉に計り知れない危害をもたらすものである。本運動は、麻薬・覚醒剤等の薬物乱用による危害を広く国民に周知させ、国民一人一人の認識を高めることにより、麻薬・覚醒剤等の薬物乱用の根絶を図ることを目的とする。

近年は、大麻事犯による検挙人員が増加に転じ、特に若年層の増加が著しく、社会問題となっていることから、一層の普及啓発・取締等を強化していく必要がある。

なお、危険ドラッグについては、取締りを強化した結果、販売店舗は全滅したものの、インターネットやデリバリー等による流通の潜在化もみられることから引き続き取締等を徹底しているところである。

このため、薬物乱用対策推進会議において策定した「第四次薬物乱用防止五か年戦略」及び「危険ドラッグの乱用の根絶のための緊急対策」に沿って、国・都道府県・関係団体が緊密に連携し、麻薬・覚醒剤等の乱用拡大を防止するための対策を積極的に行うことを実施機関等に対して徹底する。

第3 実施期間

平成29年10月1日から同年11月30日までの間とする。

ただし、都道府県の実情に応じて実施期間を変更することは差し支えない。

第4 実施機関等

主 催 厚生労働省、都道府県
後 援 公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター
協 賛 内閣府、警察庁、法務省、最高検察庁、
財務省税関、文部科学省、海上保安庁

第5 実施事項

1 政府における実施事項

(1) 広報機関等による啓発宣伝

政府広報等を通じた麻薬・覚醒剤等の薬物乱用による危害についての全国的な広報活動を実施する。

特に、大麻及び危険ドラッグについては、その危険性について正しい知識を広く普及できるよう啓発活動をより重点的に行う。

- (2) 麻薬・覚醒剤乱用防止運動地区大会の開催
麻薬・覚醒剤等の薬物乱用防止の全国的気運の盛り上がりを期するため、全国6都市において開催する。
- (3) 麻薬・覚醒剤乱用防止功労者の表彰
麻薬行政の推進に関して、顕著な功績のあった者に対して表彰を行う。
- (4) 麻薬・覚醒剤等に関する啓発資材の作成配布
麻薬・覚醒剤等の薬物乱用による危害とこれらの事犯の実態を周知するため、ポスター、パンフレット等を作成・配布する。
特に大麻については、危険な薬物であることを理解してもらえりような内容を盛り込む。

2 都道府県における実施事項

- (1) 広報機関等による啓発宣伝
自己の広報機関を全面的に活用するとともに、取締関係機関、教育関係機関等と連携を密にし、それぞれの実情に即した広報活動を実施する。
また、報道機関の協力を求め、本運動の普及徹底を図り、大麻や危険ドラッグをはじめ薬物の危険性について理解してもらえりような啓発宣伝を行うものとする。
- (2) 薬物乱用防止指導員、関係団体との連携による啓発活動の徹底
薬物乱用防止指導員、青少年健全育成団体等との連携のもとに、麻薬・覚醒剤等の薬物乱用による危害等について地域における啓発活動を積極的に行う。また、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターの活用についても考慮する。
また、「薬と健康の週間」等関連のある行事においてもこれらの乱用防止の啓発に努める。
- (3) 学校等における薬物乱用防止教室において、効果的な啓発活動が展開されるよう周知徹底を図る。
- (4) 相談制度の周知徹底
保健所の薬物相談窓口事業、精神保健福祉センターの薬物関連問題相談事業等各都道府県の麻薬・覚醒剤等に関する相談制度を広く普及し、その活用について周知徹底を図る。

進んではいけない道があり、
戻れない道もある。

大麻使用 = 破滅

STOP THE 大麻

麻薬・覚醒剤 乱用防止運動



大麻

知覚を変化させるが、恐慌状態（いわゆるパニック）を引き起こすこともある。乱用を続けると、学習能力の低下、記憶障害、人格変化を起こす。



危険ドラッグ

麻薬などに類似した構造をもつ有害で粗悪な物質が使用されており、吐き気、頭痛、精神への悪影響や意識障害などの他、死亡に至る場合もある。

覚醒剤

幻覚や妄想が現れ、中毒性精神病にもなりやすい。使用をやめても再熱（フラッシュバック）することがある。大量に摂取すると死に至る。



向精神薬

睡眠薬、精神安定剤など医療用として用いられているが、乱用されると精神及び身体へ障害を与える。また、依存により、思考、感覚及び行動に異常をきたす。



厚生労働省 都道府県

内閣府 警察庁 公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター 法務省 最高検察庁 財務省税関 文部科学省 海上保安庁

f 公式Facebook「STOP the 薬物! ~断る勇気が未来をつくる~」
<https://www.facebook.com/stopthedrug>

t 公式Twitter「STOP the 薬物!」
<https://twitter.com/StopTheDrug>

危険ドラッグに関する情報提供は「あやしいヤクブツ連絡ネット」

☎ 03-5542-1865 <http://www.yakubutsu.com/>